

## 第4回豊岡市大交流（観光）ビジョン策定委員会 会議録（要約版）

開催日時 平成30年11月16日（金）15時30分 ～ 17時20分

開催場所 豊岡市役所本庁舎3階 庁議室

出席委員 平田委員長、国枝委員、岡野委員、井垣委員、樋口委員、昆野委員  
西村委員、宮崎委員、渋谷委員、岡田委員、植村委員、青山委員、前野委員

欠席委員 山田委員、倉成委員、田中委員

観光協会 豊岡観光協会 濱田様、城崎国際アートセンター 田口様、  
たけの観光協会 青山様、豊岡観光イノベーション 藤田様、田島様、川角様、  
日高神鍋観光協会 朝倉様、但馬國出石観光協会 森垣様

事務局 小林環境経済部参事、大交流課 谷口課長、吉本課長補佐

資料

1. 豊岡市大交流（観光）ビジョン策定委員会 委員名簿
2. 豊岡市大交流（観光）ビジョン策定委員会 協議資料
3. 来訪者アンケート（国内・インバウンド）2018年4月～2018年9月速報集計
4. 豊岡市ブランド認知度調査 ―調査結果報告書―

### ■主な議事

#### 1 開会

#### 2 委員長あいさつ

（委員長）：外国人人材の受入について国会で話し合いがもたれたが、観光業の地位が低いことが浮き彫りとなった。豊岡市としては外国人人材も観光産業の中に積極的に受け入れていき多文化共生社会を実現していくべきである。そういった大きなビジョンをこの策定委員会で作っていきたい。

#### 3 議事

##### （1）前回の議論の確認（解決すべき課題）について

事務局より資料2（別紙）に基づき以下の説明を行った

- ・豊岡市の観光産業に関する経済効果、雇用効果などの数値
- ・前回の議論をふまえ、解決すべき課題を整理（Visitor・Industry・Communityの課題について、それぞれ紹介）

上記を踏まえて各委員より意見を述べた。主なコメントは以下の通り。

（委員）：資料2別紙の産業連関表のデータが平成23年度であり古い。新しいデータで分析したものはないのか。

事務局：産業連関表は5年ごとに発表される。現在平成28年度版を整理中であり、分析ができ次第報告する予定。

## (2) 本日議論いただく内容（対応策の検討）について

事務局より資料2に基づき、3グループに分かれて、Visitor・Industry・Communityのそれぞれにおける3つの課題について話し合ってもらうことを説明後、3グループに分かれてグループワークを実施。（各グループワークで出た詳細意見については、別表を参照）  
グループワーク終了後に各グループ代表者から議論内容を発表。主なコメントは次の通り。

### ●Visitor

#### 課題1：豊岡ブランドが知られていない

- ・そもそも豊岡ブランドをつくる必要があるのか。市区町村の区域が変わる可能性もあるのでは。
- ・「有名な『城崎』」の近くとして豊岡市全体を売り出す
- ・ブランド認知拡大は企業に任せて、行政は規制緩和を進めていく
- ・豊岡市には豊かなものがたくさんあるので、「豊か」を中心にブランディング
- ・共通の物語発掘、マップ、Web制作などのマーケティングの実施
- ・コウノトリを中心に口コミで広げてもらう

#### 課題2：市内の観光地が点として存在し、相互に連携できておらず、回遊できていない

- ・交通が解決の要：レンタカーが気軽に利用されるような工夫、回遊交通網（はとバス、回遊タクシー、ライドシェア）、季節やイベントにあわせたバスの運営が必要
- ・観光協会等のパンフレットを連携することで実際の周遊連携にもつながるのでは
- ・互いの地域について、お互いをよく知ることで連携につながる
- ・回遊するための仕組み（ミニバスツアー、目的別のモデルコース等）が必要
- ・統合型のツールが必要、情報発信ツールであるアプリ、Webサイト、パンフレット等において共通の一つのものが必要
- ・ツールについては旅前、旅中にわけて、利用されるものを整備すべき

#### 課題3：豊岡のローカルの魅力を満喫できていない

- ・魅力が伝わっていない、情報発信が弱い
- ・豊岡市は二次交通が弱い、関西在住者ならば問題ないが、インバウンドだと特に二次交通問題の解決が必要である
- ・横断的にガイドできるような人が必要、通訳案内士が自分の車で案内できればガイドと二次交通の問題がどちらも解決できるのでは
- ・まずは地域住民が市内観光を体験する必要がある
- ・旅前、旅中、旅後も含めて十分な魅力発信が必要

### ●Industry

#### 課題1：市内の幅広い産業が観光産業に関わっていない

- ・出石地域で見られるような（例：歯科医院の永楽館ののぼり）「まち全体でお客様を迎え入れるのだ」という意識を豊岡市全体に広げていくべきである
- ・業種ごとのグループで観光業にどのように寄与していくかを話し合ってもらう
- ・観光業のみ恩恵を受けられる「観光税」を導入し、観光業は自己申告制とすることで、観光業に携わる事業者の増加が見込まれるのでは。恩恵の分配は、観光通貨の造成で実

現できるのでは。

- ・地元の方向けの勉強会、異業種交流会、大人の遠足と称した市内ツアー実施

#### 課題2：豊岡市内の地産地消が進まない、ローカルを活用できていない

- ・産業や、人材の地産地消という観点から議論
- ・豊岡ブランドの確立、米だけでなく野菜もブランド化すべき
- ・ブランド化にあたってはロゴを作成する
- ・そもそも豊岡市の生産物が知られていないために使われていない、異業種交流をすることによって、地元のいいものが発掘されるのではないか
- ・地元の人材を育て、地元で働いていけるように支援
- ・市民のヒアリングの実施、豊岡の自慢を洗い出して、豊岡ブランドとは何かを考え発信
- ・豊岡ブランドのストーリーを商品化

#### 課題3：観光産業の社会的地位が低いため、雇用の質が悪く、通年雇用ができていない

- ・観光産業の所得は一般的な産業より2割低いため生産性や労働分配率の向上が必要
- ・域内では人が足りないため、外部人材を呼び込む必要があるが、住環境が整っていないため住環境の整備が今すぐ必要
- ・地域や企業によって繁閑の差があるので、うまく活用できる仕組みを作るべき
- ・外国人、主婦、高齢者の活用
- ・地域のブランド化（豊岡市で働くことへの誇り）

### ●Community

#### 課題1：市民が豊岡観光を楽しめていない

- ・市内で開催されている行事が多すぎるため、予定が重なり、集客がばらける。行事を統合して効率よく実施すべき。
- ・市の広報誌、ホームページ、魅力マップ等、観光情報媒体を共有し市民にも見てもらう
- ・まずは子どもに助成して市内観光を楽しんでもらう
- ・市民の日を設定（学校を休みにして、施設利用料を市民は無料にする）
- ・市民向けの料金設定、市民に観光地を回ってもらうための助成
- ・接客の最前線の人向けのファムトリップでインフルエンサーとして情報発信してもらう
- ・豊岡市内の各地域同士でおらがまち自慢をしてもらうような大会の実施

#### 課題2：市民全員がおもてなしに取り組む土壌ができていない

- ・コミュニケーションの活性化を図る（挨拶運動、ありがとう運動）、身近なところから挨拶をすることがおもてなしのベースにあるのでは
- ・子どものころからおもてなしについて教育していくべきではないか（学校教育への導入）
- ・豊岡市のことをまず知らないとおもてなしにつながらないので、市民に豊岡市について知ってもらう機会を作る（例：地元の自慢大会→知ることによって誇りにつながっていく→誇りがおもてなしになる）
- ・おもてなしができるツールをつくる

#### 課題3：市民が観光による豊かさを感じられていない

- ・割引や市民用プログラム等、市民へのインセンティブを与える
- ・観光スポットや新しいお店ができた等の情報を市民にも届けていくことが必要

- ・観光業の経済的な貢献度を見せるために数字で市民に示していく
- ・観光客と市民が交流できるようなイベントやスポットが必要
- ・観光の文化的価値を市民と共有

発表を受けて委員長より補足コメント

(委員長)：豊岡市内の中学1年生は、習った英単語で外国人に道案内をするという授業に取り組んでいる。豊岡市の教育の三本柱である「ふるさと教育」「英語教育」「コミュニケーション教育」の取り組みを観光客に伝えていくことが次のステップである。また、豊岡市内の全ての人々が旧1市5町の他の地域の観光を経験することが大事だということは、この会議のコンセンサスである。それには財源を考える必要がある。目的税を徴収し、市民の観光に用いて、観光業に分配する循環をつくるのも一つの施策である。税制に関わる非常に大きな問題なので、慎重に議論していく必要がある。

### (3) 次回議論いただく内容（目標設定の考え方ほか）について

事務局より資料2に基づき以下の説明を行った。

- ・豊岡市の観光権の提唱について（委員長の提案）
- ・ローカルの磨き上げ手法について（委員の提案）
- ・次回予定している議論のテーマ  
「2030年度の目標設定（KGIおよびKPI）」「ビジョン実現のための実施体制」

## 4 その他

事務局より次のとおり連絡があった。

- － 次回の策定委員会の日程は1月29日（火）13時30分から

## 5 閉会

以上